

吉富所長に聞く

10月26日の『原子力の日』を迎えるにあたり、今回は上関原子力発電所を巡る近況について、中国電力・上関原子力発電所準備事務所の吉富哲雄所長に直接お話を伺いました。

古泉 ● 着任以降、上関町での暮らしには慣れましたか。

吉富 ● 澄んだ空気に美しい海に囲まれた上関町の四季をこの7月でようやく一巡しました。おかげさまで、この間に様々な行事や催物にも参加させていただきました。震災後の着任ではありましたが、皆さまに温かく迎えていただき本当に感謝しております。

一方職務の方では、昨年の準備工事一時中断を受け、建設計画自体に不透明感が増してきており、皆さまにご心配をお掛けしていることを大変申し訳なく思う次第です。

上関地点は必要不可欠

古泉 ● 早速その建設計画についてですが、9月14日に政府が新たな戦略を明らかにし「原子力発電

所の新設・増設は行わない」との方針を示しましたが、どのように受け止めておられますか。



上関原子力発電所準備事務所
吉富 哲雄 所長

山口県出身
昭和31年8月 生まれ
昭和54年 中国電力に入社
平成23年6月から現職
休日に行うイカ釣りが楽しみ



① 吉富所長(左)と対談する古泉事務局長

古泉 ● このたび政府が示した方針については、重く受け止めなければならぬと考えています。その背景には、原子力発電所の安全性だけでなく、電力会社に対する国民の皆さまからの信頼が大きく揺らいでいる事実があり、我々はそのことを十分認識する必要があります。ただエネルギー資源に乏しい日本に

埋立免許の延長を申請

古泉 ● 10月5日に埋立免許の延長申請を県に対して行いましたが、その思いをお聞かせください。

吉富 ● 原子力を取り巻く状況は非常に厳しく、今後政府の検討結果を待つ必要があると思いますが、当社としては上関原子力発電所の建設を引き続き進めたいと思いは変わっていません。準備工事を含め、建設計画を直ちに前へと進める状況ではないと認識していますが、埋立免許を引き続き維持したいと考え、工事期間の延長を申請させていただきました。また今回の申請では、福島での事故を教訓として、津

高い安全性求め、設計変更も

おいて、将来にわたる安定供給や環境保全、さらに経済性のバランスを十分考えた時、原子力発電所の果たす役割は非常に大きいものと考えています。当社としても、上関原子力発電所が必要不可欠な電源であるとの認識はいささかも変わっていませんが、その前提には、原子力発電に対する皆さまからの信頼が欠かせないことを肝に銘じています。

状況を見極めて対応すべき

古泉 ● 先日、枝野・経済産業大臣が、上関原子力発電所を「新増設しない原則の適用対象」と発言されており、建設計画が困難視されていますが、いかがでしょうか。

吉富 ● 政府は今回策定した戦略について不断の検証・見直しを行うとしています。個別地点の具体的な取り扱いは今後検討されると聞いています。しばらくの間は、状況を冷静に見極める必要があると思っています。



県へ提出した埋立免許の伸長申請書

古泉 ● 具体的にはどのような設計変更に対する一層の安全確保を目的とした設計変更も盛り込んでいます。

古泉 ● 具体的にどのような設計変更

更をされたのでしょうか。

吉富 ● 発電所の主要建物を設置する敷地の高さを、従来の海拔10mから15mへと変更したのが主な内容です。上関原子力発電所で想定される最大の津波は、これまでと同様に満潮時で海拔4.6m程度ですが、当社では津波対策をより強化することで、皆さまの安心につながると判断しました。

古泉 ● 福島第一原子力発電所の事故以降、安全性について不安を感じている方もいらっしゃると思いますが、その方々へはどのように対応していくつもりでしょうか。

吉富 ● 建設を実現するためには、お一人でも多くの皆さまにご安心いただくことが必要不可欠です。そのため、当社はこの事故から得られた教訓や最新の知見に対して適切に、そして確実に建設計画に反映させるとともに、時間がかかるかと思いますが、皆さまへしっかりと伝えたい努力を続けてまいります。

協力してまちづくりを

古泉 ● 最後に町民に対するメッセージがあればお聞かせください。

吉富 ● 昨年来、上関町の皆さまには大変ご心配をおかけしており、誠に申し訳ございません。そのような中、町内の多くの皆さまからは「時間はかかるかもしれないが、諦めずに頑張っている」といった温かい励ましの言葉を多数いただいております。感謝の気持ちでいっぱいですが、当社としては、こうした声にしっかりと応えるため、建設を契機とした上関町のまちづくりに、微力ながら出来る限り貢献していきたいと考えています。

皆さまにおかれましては、引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

今さら聞けない CO2の話

地球温暖化が引き起こす問題

最近あまり話題になっていませんが、CO₂（二酸化炭素）は増加すれば重大な環境問題を引き起こすとされる気体です。では実際にどんな影響があるのでしょうか。

地球を取り巻く大気には様々な気体が含まれています。その中でCO₂は熱を閉じこめてしまう性質を持っています。このため、大気中にCO₂が増えてしまうと地球全体が暖められてしまうのです。

地球の温暖化は、世界中に様々な問題を引き起こします。海面上昇による陸地の浸水、豪雨・豪雪被害、雪や氷の溶解による雪崩や地崩れ、そしてなにより気候変動は生態系のバランスを崩してしまいます。こうした被害はすでに世界各地で報告されています。

温暖化対策の世界的な取り組みは数十年前から行われていますが、有名なのは1997年12月に京都で開催された「第3回気候変動枠組条約締結国会議（COP3）」です。ここでは温室効果ガス排出量について、法的拘束力のある数値目標が国ごとに設定されました。これらを定めたのが『京都議定書』です。

これによると、第1期の約束期間（2008～2012）に日本は1990年比で6%の削減を義務づけられています。しかし、その目標は達成されていないため、第2期（2013～2018）以降、罰則も含めた削減を義務づけられることになります。

※地球温暖化にはCO₂の他にも様々な要因が指摘されています。

対談を終えて

Focus-Nao



政府の対応に不信感

●政府は9月14日のエネルギー・環境会議で「2030年代に原発稼働ゼロを可能にするようあらゆる政策資源を投入する」とした「革新的エネルギー・環境戦略」を発表しました。しかし翌15日には、島根原子力発電所3号機や大間原子力発電所など建設中の発電所について、稼働を前提とした工事継続を認めています。これらの発電所は政府が方針を固めた「40年稼働」を前提とすると、2050年以降まで運転することになり、「戦略」とは明らかに矛盾します。さらに「原発稼働をゼロに」と言いながら、原子力発電所の運転を前提として核燃料再処理事業の継続も認めています。

●閣議決定こそ見送られたものの、こうした矛盾点を多く含む「戦略」の発表は、原子力の立地点、計画地点をはじめ、エネルギー業界、経済界、さらには世界各国からも不信、不満の声が上がっています。

●上関町に直接関わる内容も不明確です。枝野経産相は10月5日、上関原子力発電所について「新增設しない原則の適用対象だ」と述べていますが、同8日には「内閣が変わればエネルギー政策は変わる」とも発言。地域振興についても「中止となった地域振興なども精査しないとけない」と言いつつ、地域に対して何の相談もないまま、具体策を示すことなく一方的に進めようとしています。国策である原子力発電立地推進に30年間も協力してきた上関町に対し、誠意ある対応とは思えない言動です。

●こうした状況の中で、中国電力が「上関原子力発電所は必要不可欠な電源であり、引き続き建設を進めたい」との思いは変わらない」と明言してくれたことは、私たち町民にとつて心強い限りです。

●私たちは、これまで「原子力発電所立地を契機とした町づくり」を目指して活動してきました。確かに原子力に対しては多くの国民が不信感を持っており、建設計画を前に進めるためにはさらに時間が必要とは思いますが、軽率な国の言動に惑わされることなく、町民が一致団結してまちづくりの実現に向けて歩んでいきたいと思います。

大学生が上関町を取材



① 龍谷大学からの取材対応には青壮協のメンバーも参加

東日本大震災以降、上関町は原子力発電所立地による町づくりを目指す地域として全国に注目されるようになりました。原子力と地元の関係や

地域振興などを学ぶ大学生から、町連協にも多数の取材依頼が寄せられています。

9月5日には和光大学と龍谷大学から取材を受けました。対応したのは、町連協から古泉事務局長や青壮協のメンバーなどです。会合では過疎化が進む上関の現状とともに、町民が望んでいるのは町づくりであり、原子力発電所誘致はその手段であることや、過去30年にわたって地域振興に取り組んできた経緯などを説明。「福島事故後、町民の意識は変化したか」といった質問も出るなど、活発な質疑が行われました。

●今回の会報は10月26日の『原子力の日』に合わせて発行することができました。この日は茨城県東海村の原子力発電所が、日本で初めて発電に成功したことにちなんで定められたものです。現在、原子力発電には厳しい目が向けられています。しかし「平和利用」を目的とした原子力開発の基本理念が変わったわけではありません。●私たち町民も、この厳しい状況乗り越えるべく一致団結して取り組んでいくことが大切です。皆さん明るい未来を目指して頑張りましょう。(K)

後記

特産品づくり 応援プロジェクト

上関水産が実演販売 「鳩子の湯」で鳩子てんぷらを



11時～15時半 土曜定休 1枚100円

今年の1月から上関海峡温泉 鳩子の湯の玄関先で「鳩子てんぷら」の実演販売が始まりました。行っているのは上関水産の原田資さん。上関の「てんぷら」は特産品として近隣では有名ですが、遠方のお客さんにも揚げたてを味わってもらい、広めていきたいとの思いで始められました。

「柳井で小料理店をやっていたとき、魚の形のてんぷらを出していました。これを「鳩子ちゃん」という名前で販売することにしました。地元の魚を使った手づくりのてんぷらを、ぜひ揚

げたてで味わってほしいですね」と原田さん。いろいろなアイデアがあるそうですが、どう設備を整えるかが悩みの種とか。冬に向けての新商品を期待しています。



「アツアツを味わってほしい」と話す原田さん